

この学校にわたしたち

2022. 09. 27 N030

高校野球に学ぶ①



オリンピック、ワールドカップ、世界陸上・水泳、そして高校野球。華やかな舞台はテレビで中継され、視聴している方も多いでしょう。私もその一人ですが、華やかな大舞台の報道されない部分に選手や家族、スタッフの大切な思いやドラマが見られます。山口智久さんという球審をご存じでしょうか。山口さんは試合中、毎回、攻守の入れ替わりの際に、両チームの選手やベンチに対し、「いけるか?」「焦らずまず

は1点ずつとっていこう」「素振りをしよう」「全員でがんばれ」「水分をとろう」「しまっていこう」などと大声で励まし続けているそうです。そして、何より試合終了後、ホームベースを挟んで両チームが向かい合い、挨拶をする瞬間、負けて泣きじゃくっている選手たちに「大丈夫や。上を向け。甲子園で野球ができたことは誇りや。ここから胸を張って!」と上の写真の状態で選手たちに叫んだそうです。実は山口さん、高校時代、甲子園を目指していたものの地区予選で敗退し、夢がかなわなかったそうです。だからこそ、試合終了時に「甲子園で野球ができたことは誇りや。ここから胸を張って。」という言葉が発せられたのでしょ。山口さんのモットーは「球審が判定屋にならないこと。選手を盛り上げる声掛けが大切。」と語ってみえます。私たち教師もただ教えるだけの“教授屋”にならないように気をつけたいと思います。高校野球の大切な舞台でこの球審に担当していただいた選手たちは両チームとも幸せだったでしょう。そして、この球審の接し方を一生忘れることはないだろうと思います。“球審がそんなことをしなくてもよいのでは?”と思われる方が見えるかもしれませんが、常に相手のことを思い、気遣い、言葉がけができる山口さんの行動については、子どもの手本となるべく私たち1人1人が大人として考えなければならぬと思いました。

ALT が代わりました★☆☆☆

前任のクリスティが7月末までの任期であったため、8月29日より本校のALTとしてライカが着任しました。月曜日にハッ山小学校で各学年に外国語(英語)を教えてください。日本語を覚えるために単語帳を使い、校長に対しても「オサキニシツレイシマス」ときちんと挨拶をしてから退勤するなど、学ぶことに対して、自分も襟をたださなくては…と感じさせられました。これから様々な学年で授業をしていきます。宜しくお願いします。

